学部長の手帖から

西岡　正子

～四月八日花まつり～「ブッダ・ランド」ができた！

「みやこ子ども土曜塾」は、京都のまち全体を学びと育ちの場にするため、土曜日等の学校休業日に子どもたちに様々な学びの場を提供するという市民ぐるみの取組であること。また教育学部がゼミを単位に月に一度土曜塾を開いていることは、一月号でお知らせした。たしか「京都にある大学として今年度もより充実した学びの場を地域に提供していきたい。できれば佛教大学ならではの土曜塾を」とも書いた。

その京都の佛教大学ならではの土曜塾が実現することとなった。四月八日の「花まつりを盛り上げよう！　目指せ日本一の紙粘土職人」の実施である。クリスマスは子ども時代の想い出として欠かせないどころか、多くの日本人の共有体験となり、いまや文化の一部と言っても過言ではない。しかるにお釈迦様の誕生をお祝いする花祭りはと、佛教大学で行われたシンポジウム講師控え室で、京都市教育委員会の門川教育長と佛大副学長、教員、学生が意気投合して実施することになったのが宗教部と合同の「教育学部土曜塾花まつり（灌仏会）」である。

広報活動を始めてわかったことは、なんと、親も子も花祭り体験がなく、花祭り（灌仏会）がお釈迦様の誕生を祝う行事であることを知らないという事実であった。企画と実施は佛大学生。三月に卒業したゼミ生も駆けつけくれ、会議に次ぐ会議。花祭りを知らない親子が、花祭りに参加したと実感するには、お飾りをつくろう。紙粘土がいい。自分で作ったお飾りをお供えしよう。学生達の柔軟な頭脳と子どもへの愛情は「ブッダ・ランド」を生み出した。菩提樹に川に池、線路が走る広々とした草原。そんな世界に子ども達は紙粘土で象や、怪獣や、自動車や、お花。小鳥にチョウチョなど想像力いっぱいに楽しい世界を創り出した。「ブッダ・ランド」を礼拝室の誕生仏の祭壇の前に置き、岸宗教部長の挨拶、津田助教授伴奏の音楽法要。御導師の福原学長が分かり易く説かれるお釈迦様誕生のお話を、小さい子どもも神妙に聞き、厳かに花祭りが実施された。勿論、象さんにのった誕生仏に甘茶をかける初体験も。どの子も保護者と一緒に甘茶を味わった。門川京都市教育長も駆けつけて下さった。見事にできあがった「ブッダ・ランド」を是非佛大ホームページでご覧いただきたい。

インターンシップやボランティアで学校に入るのもいい勉強になるが、土曜塾がひと味違うのは、異年齢集団を対象に学生自ら企画できることである。この他、高齢者との異世代交流、生涯学習フェスティバルでの企画などなど、学生たちは、多くの人々と関わりコミュニケーションをとり、様々な企画を実施することによって、人間力を高めている。どんな課題もチーム力で達成していく学生たちは実に頼もしい。

そんな学生たちではあるが、「土曜塾花まつり」は成功したものの、物が売れて企業が儲からないと花祭りの認識は広がらないのかといささかがっかりしている。大丈夫、来年はもっと大きく、京都から、佛教大学から花祭りを発信していこう。学生たちが花祭り推進家と仰ぐ門川京都市教育長は、佛大ブランドの甘茶を売り出してはという提案までして下さっている。いかがでしょうか。お買い上げいただけるでしょうか。

通信教育で学ぶ学生さんたちも是非地域の活動に参加して、現在の教師に求められている、コミュニケーション力や企画・実践力を身に付けていただきたい。教師になる人もならない人も。